

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『何よりも心地よい生活』を理念に挙げ、地域密着を盛り込んだ事業所独自の理念を作成した。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝の朝礼で全員で理念を唱和し、共有と実践に取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念を文書化し玄関や、各ユニットに掲示している。また、役場や地域の民生委員、区長に理念を配布し理解を求めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	管理者や職員は散歩時道路ですれ違ったり、隣接の医院に受診時に会う人に対し、気軽に挨拶や声掛けをしている。デイケアの誕生日会に参加したり、一緒に外出したり日常的に付き合っている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	小中学校の訪問や体験実習を積極的に受け入れている。特に、夏の夕涼み会には、地域に声を掛けたり、隣接の医院にポスターを貼ってもらっている。また、町の乳児院の子供たちを招待したりして交流している。	○ 運営推進会議で自治会に加入することを検討したが、地域性が強く、加入は困難であった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎年1回の介護教室に協力している。また、研修、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。		○
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で均等に振り分け、自己評価票を記入し管理職がひとつにまとめた。新人が多く全員が理解しているとは言いがたい。	○	全職員が自己評価、外部評価の意義を理解し、評価を活かせるよう取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度は3回行った。行事報告、参加依頼、外部評価の報告等を行っている。しかし議事内容は施設側の報告事項のみでサービスの向上にはつながっているとは言いがたい。	○	年5回の開催が目標であるが、議題が無くサービス向上につなげるのは時間がかかりそうである。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1回/年、介護教室を開催しており、何回か打ち合わせなどしている。	○	市町村担当者とは密接な関係は無く、サービスの質の向上につなげるためには地域との橋渡しの役割をして欲しい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は研修に参加し、利用者の家族にはパンフレットに質問を受け付ける旨を記入し送付した。	○	必要な利用者は活用できるよう支援したいが、質問する家族がいないので行っていない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてマニュアルを作成し、事故防止委員会や接遇委員会で議題としてとりあげ、常に意識付けしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時に、契約書の内容を十分説明している。入居後も家族や利用者へ声を掛け不安や疑問点が無いか尋ねている。解約は今の所発生していない。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者は利用者とは会話している。また職員も日々の現場でよく会話している。しかし外部者へ表せる機会はない。</p>	<p>○</p> <p>利用者も運営推進会議に参加していただくことを考えている。しかし、プライバシーの問題や認知症もあり、検討課題である。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、異動は担当職員が毎月、請求書と一緒に書面にて家族に報告している。生活の様子が良くわかり家族には喜ばれている。定期以外に問題が生じた場合は、その都度連絡している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が面会にこられた時は、積極的に話しかけ意見を言いやすい雰囲気作りをしている。施設には意見箱の設置をしており、家族の要望、意見があれば施設内に掲示している。また、介護保険サービスに対する苦情の公的機関の連絡先を書いたポスターも、施設内2カ所に貼っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、日頃より職員の意見、苦情、相談を聞いている。また、1回/月のミーティングに出席し、職員の意見、提案を聞いている。</p>	<p>○</p> <p>運営者は施設に来ることはほとんど無く、意見や提案を聞く機会はない。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の重篤化に対し、早出勤務を設けるなど、利用者の状態に合わせた勤務体制になっている。職員の急病や突発的な休みの時には、ケアマネージャー2名と施設長が代わっている。また、夜間帯の緊急時には、近所に住んでいる職員が交代で対応している。有給休暇も勤務交代等によりとりやすい状態になっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>スタッフは、利用者を数名担当しており、異動、離職による家族の不安、利用者へのリロケーションダメージを与えることは最小限に留めたい。離職に対しては、本人の希望が施設内の勤務変更に沿えるものあれば、要望を聞いている。変更する場合は、利用者とはゆっくり話す時間をとり、ダメージを防いでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつたては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>職員の募集、採用については特に基準はもうけておらず、面接により決定している。職員については能力を発揮できるような係りを担当してもらっている。資格取得については、勤務を調整し一部費用負担している。</p>	
20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、事業計画において基本方針として『基本的人権の尊重』を一番に挙げている。職員に対し人権尊重の研修などは行っていない。しかし日々の現場や申し送りなどで人権を尊重することを話している。新人に対しても常日頃から話している。</p>	
21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修に関しては、職員の向上心が強く、研修や勉強会の参加者が多い。限られた職人体制であるが、研修計画を立て勤務を交代して参加している。</p>	
22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者間の訪問、見学また、研修の受け入れなどをし質の向上に取り組んでいる。夏祭りの際は、近隣のグループホームの職員や利用者を招待し、親睦を深めている。管理者は近隣のグループホームと俳諧ネットワーク作りを始めた。</p>	
23	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は常日頃より職員の話をよく聞き、各自のストレスや悩みの把握に努めている。また親睦会、職員旅行などストレス解消の機会を作っている。交代で休憩できるよう休憩室の確保もし、マッサージチェアも購入した。</p>	
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は隣接する医院の副院長を務めており、多忙により状況把握は困難になっている。しかし常勤である管理者が状況を報告している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった場合は、本人の話を良く聴き、現在の状況、困っていることを把握することに努めている。サービス利用については、施設内を見学していただき、職員と話し本人が納得された上で利用していただいている。	
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設を見学に来られた際に、入所受付表を記入してもらっている。その際、現在の状況や困っていること、不安なことを聞いている。	
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に入所を希望の方には、自ホームが満室であれば他のグループホームを紹介したり、訪問介護、通所介護、ショートステイの利用などを勧めている。	
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接の医院長が主治医であったり、デイケアサービスにいられていた人や、近隣の人が多い。入所希望者は、家族と一緒に見学に来られ、その時に納得される方が多い。納得されて入所しても、はじめの頃は、「いつ帰れるのか」、「もう帰る」と言って落ち着かないことがあるが、外泊をしたり、家族も頻繁に面会に来られてたりして徐々に落ち着かれる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は、人生の先輩であるので、尊敬の念を持って接している。日々の生活で、できることをしてもらい、できないことをお世話させてもらっている気持ちで接している。日常の生活で、洗濯物をたたんでいただいたり、野菜の下処理を一緒にしたり小物作りなどを楽しんでいる。</p>	
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者を担当することにより、家族とも密接した関係を持っている。家族が面会に来られた時は、現在の状況の説明や、その時々に必要な物品の依頼をしている。利用者が穏やかに過ごせるよう努力することで、家族も安心できている。</p>	
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ほとんどの家族は、入所してから落ち着いた、優しくなったと言われることが多い。家にいたときの関係、大変さがうかがわれる。面会に来られた時は、部屋に誘導し、ゆっくり話しができるようにしている。</p>	
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>手紙、暑中見舞い、年賀状のやり取りや、来所された時は、自室に誘導し、ゆっくりと話ができるようにしている。入所しても馴染みの美容室に行きたいという利用者に、2ヶ月に一度送迎している。しかし、入所が長くなるにつれ縁が薄れているのが現状である。</p>	
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>日中はなるべくリビングで過ごしてもらうことにより、時間を共有するよう促している。仲の良い利用者同士の席を同じにしたり、車椅子を使用し、下膳できない人の茶碗を下げてあげたり、洗濯物をたたんであげたりと、やさしい心使いをしてくれている。</p>	
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>身体状況が悪化のため入院し、退所になった方に対しても、引き続きお見舞いに行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進んで、意思の疎通ができない利用者は、家族の意向を聞いているが、日々の言葉の端々に、「ポロツ」と出ることがあるので、職員はそれを聞き逃さず記録に留めるようにし、他の職員と共有している。又、その希望が実現できるよう、思い出の場所へのドライブなど行っている。	
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の思い出話を聞いたときは、記録に残し、職員が共有している。次に聞いたとき利用者が忘れていたり、違っていたりしたときに、職員が思い出せるように促したりしている。	
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズム、その日の心身状態をよく観察し、無理強いせず、できることをしてもらうよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしくまた、今までの生活が維持できるような介護計画を立てている。毎月1回ケア会議を開催し、ケアの見直しを行っている。また、家族からの要望や意見、身体状況に変化があれば、その都度見直しを行っている。本人の希望により食事の時間をずらしたり、起床時間を遅らせたり意見を反映している。	
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヵ月毎と、心身の状態に変化がある時に行っている。1回/月のミーティング時に心身の状態の変化があれば、時間をとって十分に話合っている。対応できない変化が生じた場合は家族、本人、主治医と相談し現状に即した計画を立てている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者各々の介護記録、バイタルチェック表(食事量、バイタル、入浴の有無、排泄状況など)、各ユニット毎の業務日誌、連絡帳などで、情報を共有している。連絡帳や会議録など、見落としが無いようにサインするようにし、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診、散歩、買い物などの支援を必要に応じて行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署に依頼し、1回/年 消防訓練を行っている。中学校の職場体験、小学校の新聞作りの取材、その他ボランティアの受け入れなどを行っている。民生委員は、運営推進会議に参加してもらっている。	○	地域の老人会、婦人会、文化、警察など積極的にかかわって行きたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	紙オムツの購入、訪問理美容、利用者の重度化に伴い、エアーマットのレンタルサービスを利用している。また、隣接している医院のデイケアの誕生会、お楽しみ会へ参加している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に協働していない。空き部屋情報を掲示してもらっている。	○	運営推進会議の参加を考えたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事でもある隣接の医師が主治医である為、本人、家族の希望を充分取り入れている。定期的に、採血、レントゲン検査(胸部、頭部)、CTなどの検査を行い、異常の早期発見に努めている。専門外については、紹介状を主治医に書いてもらい受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>理事でもある隣接の医師は介護施設の嘱託医を長年経験してきており、かつ、介護認定審査会のメンバーでもあるので、認知症に対する理解がある。毎朝、診療前に出向き利用者の顔色や、身体状況を聞き、必要があれば受診の指示をしてくれる。</p>	
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>理事である、隣接の医院の看護師に気軽に相談できる。また、スタッフに准看護師がおり、利用者のことをよく理解し、日常の健康管理や、医療の面の支援をしている。</p>	
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した際、お見舞いノートを作成し、スタッフがお見舞いに行った時は一言、励ましの言葉を書くようにしている。また、入院先で、廃用症候群にならないように、主治医と施設ケアマネとの連絡を密にし、早期退院を目指している。</p>	
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>理事が隣接の医院長ということもあり、医療面においては、家族も安心している。利用者一人一人の状態を見ながら、必要に応じてその都度話をしている。</p>	
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>開設当初からすると、利用者がどんどん、重度化し、車椅子使用者、オムツ使用者が半数以上になっている。理事でもある、医師と家族、ケアマネが重度化については話し合っている。また終末期については家族の希望を聞き、その都度、主治医と話し合っている。スタッフは、今後の利用者の変化に備え、医療、介護の専門分野を生かし支援を行っている。</p>	
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退所に関しては、基本的に本人にとって一番良い生活場所と言う観点から、家族と十分に協議し決定するようにしている。退所後の受け入れ先の施設、入院先が確保されるまでは、責任を持って当施設での生活を確約するようにしている。又、決定した場合は十分な情報を提供している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念に掲げる。スタッフによって捉え方の違いはあるが、尊重して接するようにしている。個人情報についてはマニュアルを作成しミーティングで話している。	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人からの自発的な希望は無いが、その日の天気、気温、身体状況を見ながら、スタッフからメニューを提示し、納得してもらっている。無理強いはいしない。	
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調を見ながら、起床時間をずらしたり、食事時間をずらしたり利用者のペースに合わせている。	
(2)その人らしい暮らしの支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人で、更衣出来ない人には、服を選択してもらっている。1回/2月、化粧のボランティアに来てもらっている。日頃化粧をすることがあまり無いので喜ばれている。2回/月出張理美容に来てもらっていて、本人希望の髪形やパーマをされている。また、行きつけの美容院に行かれている利用者もいる。	
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を多く取り入れている。露の皮むきや野菜の下処理を手伝っていただいている。スタッフも介助しながら一緒に食事を摂っている。季節の行事でおはぎ、柏餅作り、餅つきなどは利用者と一緒に楽しんでいる。	
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、利用者の嗜好を理解しており、おやつ、飲み物を状況に合わせてだしている。お酒は特別な日(誕生日、行事など)に出している。	以前はタバコを吸われる利用者がいて、決まった場所で職員と一緒に吸っていたが、現在は本人の意思で止められた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は排泄に関してのリズムを把握している。一人一人に合わせたトイレ誘導をし、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	○	現在リハビリパンツを使用している利用者も夏に向け布パンツに移行できるようミーティングで話している。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴することは、一日の疲れを取る意味でも楽しみなものである為、毎日入れてあげたいが、設備のことでない不可能である。しかし、便汚染により、シャワーが必要であれば、夜間帯でも対処している。入浴したがる利用者には、決して無理強いないで、スタッフがかわるがわる声を掛け入浴を促している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝、体調が悪い人や、まだ寝ていたい人などは、無理に起こさず、朝食も遅れて摂ってもらっている。日中も横になりたい利用者には、居室や、ソファ、畳などに横になってもらっている。しかし、昼夜逆転しないように余暇時間に適度な疲れが生じるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日が楽しく過ごせるように、ラジオ体操、日めくり、金魚の餌やり、洗濯物を干したり、たたんだり利用者と一緒にしている。庭には畑があり、季節ごとに収穫を楽しんでいる。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる利用者には、お金を持たせている。しかし、数人しかおらず、他の利用者は、買い物をした時は、職員が支払い、月初の請求時に家族に請求している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1回/月、隣接のデイケアの誕生会、お楽しみ会に参加している。天気の良い日は、屋外に散歩に出かけたり、外でご飯や、お茶を飲んだりしている。その他、行事として、花見、食事、買い物、ドライブなどを行っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一部の家族は、定期的に行きたいところに連れて行っている。施設では、思い出作りと言うことで、何名かの利用者とともに、希望されるところに出掛けている。	○	なかなか面会に来ない方や、重度化して車椅子を利用するようになると、家族とも外出できなくなるので、軽度の利用者は、重度化する前に連れて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を置いているが、本人から電話を掛けることはほとんど無く、依頼があれば代理で電話する。手紙のやり取りができる利用者はいない。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は施錠しておらず、家族、知人、友人、馴染みの人たちがいつでも気軽に訪問できる雰囲気である。訪問者には、スタッフが笑顔で挨拶し、飲み物を必ず出すようにし、歓迎している。スタッフの担当者が、最近の様子や、持って来てもらう物があれば依頼して、コミュニケーションをとっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの意義をスタッフ一人一人が理解している。物理的な拘束だけではなく、言葉や、薬による拘束に対しても認識している。徘徊者に対しては、玄関先で止めるのではなく、話をよく聞き、納得しない時は、気が済むまで付き合うこともある。	○	身体拘束、言葉による拘束に対しての勉強会を行って行きたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は、鍵をかけることが、拘束である事を理解しているので、玄関には鍵を掛けていない。しかし離園者が続き、危険を感じたため、山ヶ崎ユニットのドアには施錠している。居室の鍵は、家族、利用者が希望する人のみ付けている。	○	施錠していても鍵を外し出て行く。そのためドアにはベルをつけている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレ誘導、オムツ交換、入浴など、プライバシーに注意しながら、行っている。また、居室に入る時は必ずノックし、声掛けしてから入るようにしている。夜間帯に鍵を掛ける利用者には、巡視の時に職員が鍵を開けて安全を確認することを承諾してもらっている。	○	山ヶ崎ユニットの台所は、奥まっけていて、死角ができリビング全体が見渡せないで、必ずスタッフ一人が、全体を見渡せる位置で見守りを行っている。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、消毒液などは常に扉の中、手の届かないところにおいて、誤飲しないように気をつけている。しかし裁縫ができる利用者は自室に裁縫道具を置いている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会が中心になり、マニュアル製作、事故報告書、ヒヤリ、ハット報告書の取りまとめを行っている。必要時には、委員会を開催し事故防止と対策に取り組んでいる。	○	事故、ヒヤリ、ハット報告書を提出することに対して、職員の意識がまだ低いので、委員会に言われなくても進んで報告書を提出するように取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成している。救急救命の基礎講習を受講させ、人命を預かる仕事として周知させた。また、消防署の協力を得て救急救命の講習を受講した。	○	職員の入れ替わりがあり、今年度も消防署の協力を得、防火訓練、救急救命の講習を6月25日に受講する予定。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1回/年火災を想定した訓練を、防火管理委員会が指揮をとり、利用者、スタッフ全員参加で行っている。H21年4月には夜間消防訓練を行った。消防署より、消火訓練を指導してもらっている。運営推進会議でも議題に挙げている。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所契約の際リスクについて言及している。家族の意向を聞きながら、生活に反映させている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	業務日誌、介護記録、申し送り等による日々の記録、食事摂取、排泄の記録、バイタルなどの記録により、一人一人の状態を把握している。熱発がある時は、こまめにバイタルを測ったり、水分補給、アイスノンを施行したりして対処している。日勤帯であれば隣接している医院にて受診する。夜勤帯であれば、救急車を呼ぶよう指導している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護ファイルや、投薬ノートに処方箋をファイルしており、職員がいつでも見ることが出来る。毎週1回の投薬日には、投薬担当者や夜勤者が主治医と話し合い薬を管理している。処方された薬を間違いなく服用できるように薬仕分けボックスにて管理している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬になるべく頼らず、自然に排便が出来るように食事は、食物繊維の多く含まれる食材を使用したり、乳製品を使用したデザート、おやつを提供をしている。また屋内で軽い運動を行ったり、天気の良い日は屋外に散歩に出たりしている。食後トイレに誘導し、腹圧をかけることで、排便を促している。	○	自然排便ができる利用者が少なくなり、主治医と相談しながら下剤を使用することもある。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1回/年歯科検診を行い、治療の必要な利用者は外来、往診にて治療を行っている。介助の必要な利用者に対しては、スポンジ歯ブラシなど、その人に合ったもので、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は入れ歯洗浄剤にて洗浄し、定期的な歯ブラシの交換、日光消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日本食を主体に、咀嚼、嚥下の悪い人には、お粥、雑炊、キザミ、ミキサーなど、一人一人の状態に合わせて調理している。水分は、食事の時、おやつの時提供している。訴えの無い利用者は、脱水にならないように気をつけている。状態が悪い利用者は、食事量、水分量を業務日誌に記録し情報を共有している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会が主体になり、感染防止に努めている。手洗いの励行、必要場所に消毒液を設置している。口腔ケア一時、オムツ交換時など感染予防のためゴム手袋を使用している。冬季には、利用者、職員全員対象にインフルエンザ予防接種を行っている。年に、2回バルサンを焚いている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食委員会が主体になり、食中毒の予防を徹底している。日常の食材は、鮮度を確認し購入している。冷蔵庫の清掃は、1回/月の消毒当番を決めている。また、それ以外にも気が付いた時に掃除や、食材の賞味期限確認を行っている。台所で使用する、布巾、台拭き、手拭、まな板などは、昼食後と夜間帯にハイター消毒している。		
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花と金魚、手作りの表札、玄関周りには、四季の草花で潤い天気の良い日は、日光浴ができるようにベンチやパラソルを配置している。また、家族や、近隣の子供が遊べるようにブランコも設置している。利用者が、屋内にいても風を感じる事が出来るように風車を取り付けている。玄関は施錠していない。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に和室があり、昭和30年代の家具や時計などを設置し、利用者が働き盛りの頃を思い出させるようにしている。又、壁には季節の折り紙や貼り絵を飾り季節感を出している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルや、リビングのソファーフアを配置しいつでもくつろげる空間を提供している。ソファーフアは、何箇所か置いてあり、仲の良い者同士が、座り話が弾んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅にて今まで使用していた家具や仏壇など、なじみの物を持って来てもらい、今までの生活空間をそのまま再現していただくようにしている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	プラズマイオンを利用したエアコンを設置し、玄関やリビング、居室には、消臭剤を設置している。また、シーリングファンを取り付け、空気がよどまないようにして換気通気には気をつけている。温度調節については、利用者の意見を聞きながら、きめ細かく対応するようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内は、手摺りを取り付け、足元の不安定な利用者が利用している。また、必要に応じてベッドサイドには補助バーを取り付け、自立に向けた援助をしている。腰が曲がっている利用者には洗面台を低くしたり、テーブルが高い利用者には、テーブルの下に引き出せるテーブルを設置している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはカタカナで大きく表示し、居室は手作りの表札を出している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内にある畑や、花壇作りを利用者と一緒に行い、季節の野菜や、花を楽しんでいる。。玄関入り口には、金魚を飼育しており、自然や、生き物と触れ合うことが出来る。また、ブランコや、ベンチを置き、面会にこられた家族や、近所の子供達と遊んだり、天気の良い日は日光浴ができる。	○	月日の流れとともに重度化が進み、外で楽しめるのは一部の利用者で、景観することが多くなったのが現状である。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input checked="" type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

隣接の医師が理事であり、毎朝診療前に訪問してくれる。理事である医師は夜勤者の申し送りを聞き必要があれば受診の指示を出してくれる。リハビリ、受診など、隣接の病院と連携し、利用者の健康管理を行っている。受診の送迎は全て職員が行っており、家族の手を煩わせることは無い。管理者は、研修やボランティアの受け入れに積極的であり、他施設、中学校の体験学習などが訪れている。施設内には、昭和30年代を思わせる和室があり、利用者は毎日たたみでくつろいでいる。施設内の所々に、手作りのリハビリ器具を設置し、機能低下を防止している。壁には利用者とともに作成した折り紙や貼り絵など飾り、季節を感じていただいている。外には、畑があり利用者と一緒に耕し、収穫を楽しんでいる。